

# 経営探訪

羽田電線株式会社

日本一の技術で  
世界へ羽ばたく

## 羽田電線株式会社

〒015-0083  
秋田県由利本荘市滝ノ沢字新岡崎40  
TEL. 0184-29-2907  
FAX. 0184-29-2416  
http://www.haneda-ew.co.jp/



代表取締役 秋田工場長  
尾身 一人  
おみ かずと

- 創業 / 1970年
- 資本金 / 1000万円
- 従業員数 / 14名
- 業務内容 / 電線製造業

## MANAGEMENT REPORT

### 日本随一の技術で“燃る”

情報端末機器や通信機器、半導体検査装置、医療用超音波診断装置などの製品をつくるうえで欠かせないのが、撚り線と呼ばれる極細・超極細ケーブル。細線に張力をかけ、微細に制御しながら作られる撚り線は、細くなればなるほど複雑で高度な技術が必要となる。この撚り線製造を、1970年の創業以来一貫して手掛け、国内外で高い評価を受けているのが、由利本荘市にある羽田電線株式会社だ。1981年に法人化し、1984年に前代表の井島幸二氏が故郷・秋田に工場を設立した。規格商品を大量生産する大手企業とは異なり、発注元のニーズに応じたさまざまな種類の電線製造を手掛けている。

「東京都大田区羽田で創業したことから、羽田空港にちなみ“世界に向けて飛躍したい」という想いで、創業者である先代が羽田電線と名付けました」と尾身一人代表は語る。国内電線ケーブル大手の電線部品製造会社の協力工場として創業したが、あらゆる注文に応じていくうちに、取引先は大手から中小まで約90社に拡大。「多品種少量生産、短納期と、お客様のニーズに応じてきた結果、技術の向上と信頼に繋がっています」と自負する通り、同社

は、他社が敬遠する特殊なサイズや難しい素材に果敢にチャレンジすることを経営方針に掲げ、近年は医療機器用や産業ロボット用といった耐屈曲性のある特殊な極細線の製造に力を入れる。0.1mm前後の人の髪の毛の太さよりはるかに細い、0.020mmや0.016mmといった、肉眼では見えないほどの極細電線を精密に燃る技術は“日本随一”とも評され、問い合わせが絶えない同社には、営業要員は不要だ。

### 地元商工会と連携し、自社の強みを明確化

「自社開発した撚線機の導入や、市販の装置を自社でカスタマイズするなど、手間をかけることで、他社との差別化を行いながら事業を展開しています」。

義父の井島前代表のもと、早くから事業承継を意識し、製造の要である秋田工場の工場長として生産を統括していた尾身代表は、地元の商工会や金融機関と信頼関係を築き、経営革新計画や経営力向上計画の策定にも取り組みながら、常に時代の先を見据え、自社製品の高付加価値化を進めてきた。

2010年に製造を秋田工場に集約し、2017年には、国内外で

の内視鏡分野の需要の高まりを受け、由利本荘市商工会の協力を得ながら、補助金等を活用して設備投資に踏み切った。独自のカスタマイズを施した最新の撚線機を導入し、標準的な太さである0.025mmよりさらに細い内視鏡用架間ケーブルの極細線化に成功。続いて、電線素材としては珍しい銀を材料とする医療用超音波診断装置の極細線ケーブルの開発および商品化に着手した。銀は電気伝導率が高く、検査時間の短縮やデータの高画質化を可能とするが、柔らかい素材のため加工の難易度が非常に高いという。難しい材料である純銀を扱い、自在に燃る技術は他の追随を許さない。



1 治具に独自の技法を施し、精密な機械制御を行う。  
2 増設した工場内には最新鋭の機械を導入。

3 若手からベテランまで幅広い。  
4 極細線から極太の電線まで幅広いニーズに応える。

### 本社を秋田へ移転。新たなステージへ

高品質の極細線は、小型化・高精度化する電子機器や医療機器に欠かせない部品であり、航空機分野や宇宙産業での活用も期待されている。尾身代表は代表交代を契機に、今年の1月、川崎市から秋田工場へ本社を移転し、8月には、内視鏡やカテーテル、エコー検査装置、胃カメラ等の医療機器向けに特化した電線製造工場の増設を行った。若い世代の3名の新規雇用により地域経済と製造業の活性化にも貢献しながら、成長分野への参入を加速させている。

「本社機能と製造を秋田工場に集約することで、よりレスポンスの早い事業展開が可能となります。細かな調整が不可欠な極細線の撚線機はベテラン職人しか扱えないので、ノウハウを継承しつつ自動化もすすめ、羽田電線にしかできない、特殊なもの、扱いが難しいもの、手の込んだものに、これからも挑戦し続けたいと思っています」。

創業者の想いを継ぐ羽田の名のもとに、秋田から世界へ、羽田電線は飛躍し続ける。